

講習会を超える！：九州大学附属図書館医学図書館 における利用者支援のこれまでとこれから

梶原，瑠衣
九州大学附属図書館医学図書館

塩田，麻実
九州大学附属図書館医学図書館

宮嶋，舞美
九州大学情報システム部情報基盤課

<https://hdl.handle.net/2324/1905546>

出版情報：Medical library. 61 (2), pp.178-181, 2014-06. Japan Medical Library Association
バージョン：
権利関係：

講習会を超える！：九州大学附属図書館医学図書館における利用者支援のこれまでとこれから

梶原 瑠衣¹⁾，塩田 麻実²⁾，宮嶋 舞美³⁾

九州大学附属図書館医学図書館^{1), 2)}，九州大学情報システム部情報基盤課³⁾

I. はじめに

本報告では、九州大学附属図書館医学図書館（以下、医学図書館）における講習会の事例と、そこから見えてきた利用者支援の課題と解決に向けた取り組みを紹介する。

II. 九州大学附属図書館の講習会

1. 九州大学について

九州大学（以下、本学）は、箱崎、伊都、病院、大橋、筑紫の5キャンパスで構成され、その中に6つの図書館・室がある。

本学の構成員数は、平成25年5月1日時点で学生18,801人、教職員7,784人である。このうち、医学図書館がある病院キャンパスには、学生約3,100人、教職員約1,400人が所属している。上記の数は、学生は正課生、教職員は常勤のみであり、研究生などの非正課生や非常勤教職員は含まれない。そのため、図書館の学内サービス対象者実数はさらに多い。

2. 講習会の概要

本学では、各キャンパスの図書館・室で連携して各種講習会を開催しており、医学図書館では参考調査係3名（うち1名は他係兼務の係長）と情報システム部の職員1

名が担当している。

講習会の受講者は正課・非正課学生、常勤・非常勤教職員など多様であり、1回あたりの受講者数は講習会によって大幅に異なる（表1）。PCを使用して実習形式で行うことが多いため、会場は図書館内外のPC設置スペース・教室などを利用している。

講習会は、実施形態や内容によって「大学図書館活用セミナー」「オンデマンド講習会」「利用説明会」の3種類に分類される（表2）。

以下では各講習会の特徴と概要を紹介する。

1) 大学図書館活用セミナー

大学図書館活用セミナーは、初年次教育の授業と連携して行う新入生図書館ガイダンスであり、平成18年度から開催している。講師は各キャンパスの図書館職員である。内容は、図書館の利用方法、資料の探し方、情報の利用倫理、図書館ツアーなどである。箱崎キャンパスにある中央図書館作成のモデル教材を各館室で利用して

表1. 医学図書館各種講習会1回あたりの受講人数（平成25年度）

種別	最小人数	最大人数
大学図書館活用セミナー	34	140
オンデマンド講習会	4	72
利用説明会	5	49

表2. 各種講習会の主な特徴

講習会種類	内容	開催形態	参加単位	講師
大学図書館活用セミナー	新入生向け	教員からの依頼	クラス	図書館職員
オンデマンド講習会	利用者からの依頼に応じた内容	利用者からの依頼	クラス 有志のグループ	図書館職員
利用説明会	データベースの紹介、比較、 利用説明	図書館で企画	個人	外部講師 図書館職員

注：各項目には例外もある。

¹⁾ Rui KAJIWARA：〒812-8582 福岡県福岡市東区馬出3-1-1.
kajiwara.rui.351@m.kyushu-u.ac.jp

²⁾ Mami SHIOTA

³⁾ Maimi MIYAJIMA (2014年3月24日 受理)

いるが、近年は工夫を重ねて、実施館・室や講師による特色や多様性が出てきた。

大学図書館活用セミナーは実施率が高く、平成25年度は全学部の86%で行われた。医学図書館でも、年を追うごとに依頼が増え、平成23年度から平成25年度の3年間、病院キャンパスの全学部（医学部、歯学部、薬学部）で実施した。一度申し込みのあった学部、学科からの依頼が継続していることから、一定の評価を得られたと考えられる。

なお、平成26年度からは本学の初年次教育が大きく変わるため、大学図書館活用セミナーという形態での講習会は平成25年度で終了する。

2) オンデマンド講習会

オンデマンド講習会は、利用者からの依頼に応じて随時行うもので、各キャンパスの図書館職員が講師を担当する。

医学図書館のオンデマンド講習会は、教員が授業のクラス単位で申し込んでくる場合がほとんどである。対象は、学部生、大学院生、病院職員など様々である。内容は医中誌WebやPubMedの利用方法を中心としたものが多い。

3) 利用説明会

利用説明会は、利用者からの依頼を受けて行うのではなく、図書館側で企画・開催する講習会である。上述した講習会がクラスもしくは有志のグループ単位を対象としているのに対し、利用説明会は個人での予約・参加が可能である。

講師は、データベース提供元から派遣される外部講師が担当する場合と、図書館職員が担当する場合がある。前者の場合は、特定のデータベースの説明会となること

が多く、複数のデータベースの違いを客観的に知りたいという利用者のニーズを汲んだ内容にはならないこともある。これに対して後者の場合、複数のデータベースやツールを比較する内容や、どのような時に何のデータベースを使うかといった、利用者ニーズにまで踏み込んだ内容にすることができる。

医学図書館では具体的な取り組みとして、平成25年7月から平成26年1月の間、1～2ヶ月に1回のペースで図書館職員が講師となって定期講習会を試行した。

以下はこれまでにを行った定期講習会テーマの一部である。

- ・事務職員のための文献入手法
- ・はじめてのPubMed
- ・サイテーションインデックス、インパクトファクターを調べたい人のための文献調査法
- ・初心者向け文献管理ツール活用法

テーマは、日々の問い合わせやレファレンスなど、利用者のニーズを考慮しながら設定した。申込者数は毎回多く、アンケート結果も高評価である。

Ⅲ. 病院キャンパスでの実績と課題

平成20年度から平成24年度までの医学図書館の講習会開催実績を見ると、全体的に、開催数、受講人数ともに順調に増加している（表3）。

増加理由はいくつかある。まず、教員へ積極的に連絡をとり講習会の依頼を受けてきたため、オンデマンド講習会にリピーターが定着した。また、利用説明会の開催を病院キャンパスメーリングリストで広報し、情報を発信する機会を増やした。結果として、医学図書館が講習会を開催しているとの情報が少しずつ広がり、開催数、受講人数の増加に結びついたと考えられる。

表3. 医学図書館の各種講習会開催実績

年度	利用説明会		オンデマンド講習会		大学図書館活用セミナー		回数計	人数計
	回数	人数	回数	人数	回数	人数		
20	10	149	7	336	2	113	19	598
21	12	218	8	303	4	261	24	782
22	10	183	7	173	5	316	22	672
23	16	208	10	282	6	397	32	887
24	17	235	12	332	6	400	35	967
25	20	402	14	350	6	410	40	1,162

補足

- ・大学図書館活用セミナーの名称は平成23年度からである。平成22年度以前は新入生図書館ガイダンスと呼んでいた。
- ・オンデマンド講習会の人数増減が激しいのは、依頼によって大幅に変わるためである。大人数クラスが1回減るだけで全体の人数がかなり減少した年もある。
- ・平成25年度の実績は平成26年3月24日現在の数である。

病院キャンパスで各種講習会を開催する中で課題も見えてきた。講習会に関心を持っているのに参加が難しい利用者への支援である。平成24年度に病院キャンパスで開催した利用説明会の当日キャンセル者数は、申込者266名中56名であった。講習会に参加したくても都合がつかず、資料のみ請求する利用者もいる。病院キャンパスでは、当日のキャンセル率も講習会資料の入手希望者の数も、他キャンパスと比べて多い。

時間的制約が生じやすい病院キャンパスの利用者のために、いつでもどこでも自発的に学べるような教材を提供する必要がある。

そこで、課題を解決するために、医学図書館では、講習会の動画公開、メーリングリストの活用、ウェブガイドの作成に取り組んでいる。次項目では各取り組み事例について紹介する。

IV. 課題解決への取り組み

1. 取り組み事例

1) 講習会の動画公開

講習会の動画について、ニーズがあることは分かっていたため、平成24年度、外部講師による利用説明会の録画・公開を試行した。

撮影と編集は、附属図書館付設組織である教材開発センター¹⁾に協力を要請した。動画は、編集後ウェブにアップし、URLを病院キャンパスのメーリングリストで広報した。URLは本学の学内者限定で利用するように注意を促した。

公開については、当初、本学Web学習システム（以下、Web学習システム）に動画をアップし、ログインして利用する方法を検討していた。Web学習システムは、本学において学習教育を支援するためのシステムで、本学所属者に発行される全学共通IDとパスワードでログインして利用する。しかし、病院キャンパスでは雇用形態が多様であるため、全学共通IDを持たない職員も存在する。また、Web学習システムに馴染みのない利用者も少なくないと考えられた。以上の理由でこの案は断念したが、公開手段としては再考の余地がある。

2) メーリングリストの活用

本学には、病院キャンパスの教職員と一部の学生約5,000人へ一斉送信可能なメーリングリストがある。メーリングリストで利用者へのニーズ調査や情報提供ができないかと考え、平成25年度、文献管理ツールについてのアンケート調査と結果のフィードバックを行った。

以下はアンケート項目の一部である。

- ・主に利用している文献管理ツールとその理由
- ・興味のある文献管理ツール
- ・文献管理について困っていること、機会があれば教えてもらいたいこと

回答期間平成25年6月23日から7月31日の間に、約75名の回答が得られた。

アンケートのフィードバックとして、初心者向け文献管理ツールマニュアルを作成した。ツールは、本学の契約状況やアンケート結果を考慮し、RefWorks, EndNote Basic, Mendeleyを選択した。これらのマニュアルをメーリングリストに送信したところ、これまで文献管理ツールを利用していなかった利用者からも問合せがあった。

3) ウェブガイドの作成

本学では、平成23年度からウェブベースのパスファインダー管理提供サービスLibGuidesを導入している²⁾。LibGuidesで作成した資料の調べ方ガイドやおすすめ本棚は、Cute.Guidesという名称で、本学附属図書館ウェブサイトに公開されている³⁾。

Cute.Guidesのコンテンツは、図書館職員、教員、そして図書館学習サポーターが作成している。図書館学習サポーターとは、図書館での学習支援を目的に雇用している学生アルバイトである。平成24年3月から箱崎キャンパスの中央図書館、平成25年4月から伊都キャンパスの伊都図書館で活動を開始した⁴⁾。

LibGuides導入から1年半は、医学、歯学、薬学分野のコンテンツがほとんど作成されない状態だった。そこで、平成25年11月、医学図書館でも図書館学習サポーターを雇用した。平成26年3月現在、医学部、歯学部の学部生、大学院生の計4名が、病院キャンパスの利用者向けコンテンツを作成している。

以下に、病院キャンパス図書館学習サポーターが作成したコンテンツのタイトルを一部紹介する。学部生、研修医など、明確なターゲットが設定され、読みごたえのあるものが揃っている。

- ・歯科医師として診療室で働くようになったら
- ・化学実験－基礎のキソ
- ・生命と数学
- ・歯学部生におすすめの教科書！

2. 取り組みの今後

講習会の撮影・編集は、医学図書館が単独で行うには難しく、公開の問題も解決していない。今後取り組んでいくためには検討が必要である。メールでの情報提供は、一定の効果があると感じられたため、さらなる活用

を考えている。

上述した事例の中で最も積極的に取り組む予定であるのは、ウェブガイドの作成である。図書館学習サポーターには、今後も各々の専門分野を生かしたコンテンツを作成してもらおう。医学図書館職員も、病院キャンパスで役立つデータベース・ツールガイドやPubMed利用ガイドを作成する予定である。コンテンツは講習会で活用するほか、メーリングリストで紹介し、多くの利用者にアクセスされるよう広報していく。

V. おわりに

病院キャンパスのサービス対象者は、学部生、大学院生、教員、事務職員、病院職員など様々であり全ての利用者のニーズに一度に答えることは難しい。講習会の内容を工夫しても参加できない人は大勢いるだろう。また、

実施回数を増やしても、希望する全ての人に参加することはできない。これまで行ってきた講習会が一定の評価を得ていることも自覚しながら、新しいサービスも検討・実施し、各利用者の満足度を上げる努力をしていきたい。

参考文献

- 1) 九州大学附属図書館付設教材開発センター [internet]. <http://www.icer.kyushu-u.ac.jp/> [accessed 2014-02-24]
- 2) 天野絵里子. つながるLibGuides：パスファインダーを超えて [internet]. カレントアウェアネス-E. 2013;234(E1410). <http://current.ndl.go.jp/e1410> [accessed 2014-02-24]
- 3) Cute.Guides [internet]. <http://guides.lib.kyushu-u.ac.jp/> [accessed 2014-02-24]
- 4) 図書館学習サポーター/Cute.Supporters [internet]. <http://guides.lib.kyushu-u.ac.jp/Cuter> [accessed 2014-02-24]

Beyond the Workshop: Support of Users at Kyushu University Medical Library

Rui KAJIWARA, Mami SHIOTA, Maimi MIYAJIMA

Kyushu University Medical Library. Maidashi3-1-1, Higashiku, Fukuoka-City, Fukuoka 812-8582, Japan

Abstract: To support users at the hospital campus, the Kyushu University Medical Library has held various workshops, such as guidance for new students, customized workshops for students and faculties, and database workshops. In recent years, the number of workshops and participants has increased. However, a certain number of users have difficulty participating in such workshops because of their research and

work schedule. As a solution, we have attempted to record workshops, use mailing lists, and create web guides.

Keywords: Kyushu University Library; Education; Libraries, Medical; Information Literacy; Libraries Service (*Igaku Toshokan*. 2014;61(2):178-181)